



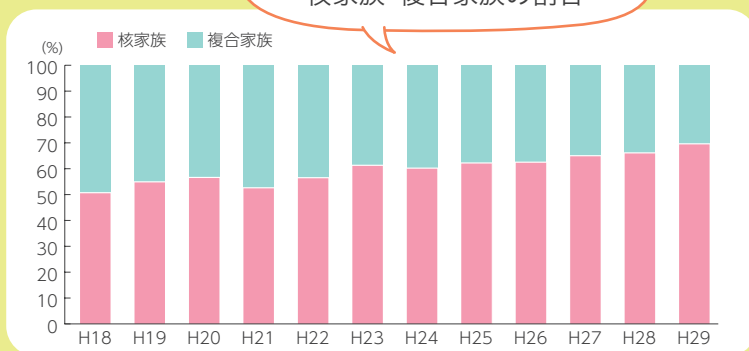
子育て世代を見守るボランティアスタッフ

みんなで守り 育てる社会へ 地域で みんなで 子育てしよう

近年は本市でも多くなった親と子どもだけの「**核家族**」。ライフスタイルの変化などで、家族構成や家族のあり方が変化し、身近に頼れる人がおらず、仕事や家事に追われる子育て世代が増えています。そんな子育て世代を、地域住民や企業など、家族以外の方が応援する仕組みがあります。

今回の特集は、育児や家事を地域で支え合うことの大切さについて考えます。

田原市の4カ月児健診受診者の
核家族・複合家族の割合



子育て世代の現状

少子化の背景には、非婚化・晩婚化や地域の人間関係の希薄化に加え、核家族化があるといわれています。

本市でも核家族化が進み、10年前までは子育て家庭の約5割が複合家族(※)の世帯でしたが、今はグラフのように約7割の世帯が核家族です。

子育て世代を支える人や環境が減少し、育児への不安感や負担感が大きくなっている状況は、「**育児の孤立化**」と呼ばれています。

このような状況で、子育てサービスを利用することは特別なことではなく、子育てを頑張るママ・パパ自身のケアのためには、とても大切なこととです。

しかし、社会の中には「母親が子育てを担うべき」という考え方がいまだに根強く残っており、それがプレッシャーとなつて支援を受けることをためらう人も少なくありません。

現代の子育て環境への理解が深まり、子育て世代が身近に相談できる人や場所を持つること、そして、人や地域・企業などを問わず、「お互いさま」の気持ちで子育てや家事を応援し合う仕組みが必要とされています。

※複合家族とは、核家族を除く全ての家族のこと